

ごあいさつ

皆様お健やかに過ごすご様子、なによりと存じます。

去る 4 月 12 日に投開票がありました神戸市議員選挙におきまして、
わたくし山下てんせいは 4245 票を頂戴し、二期目を迎えることが
できました。

今回の当選は、偏に先代から変わらずご支援くださった皆様の賜物と
感謝しております。

ただ残念ながら旧みんなの党である「新世代こうべ」は、議員一人になってしまうという
事情から解散となりました。また私自身も、政策の方向性と今後の議員としての活動を熟
慮いたしました結果、今期より自由民主党神戸市議員団に加入することとなりました。
会派も立場も一新することになりますが、**私の仕事は「地域の皆様の代弁者」であること**
を決して忘れず務めさせていただく所存です。

私の決断にご理解をいただき、変わらぬご支援をお願いいたします。



◆平成 27 年度の役職について

●常任委員会 **企業建設委員会 委員長を拝命いたしました。**

交通局・水道局・建設局を担当する委員会です。特に水道事業や高速鉄道事業（地下鉄）、自動車
事業（バス）のような、公営企業を多く所管しているのが特徴です。

●特別委員会 **外郭団体に関する特別委員会 理事を拝命いたしました。**

4 年連続で参加させていただくことになりました。神戸市の外郭団体の会計や事業内容について審
議する委員会です。これまでの経験や情報をふまえ、しっかりと質疑をしていきます。



◆平成 26 年度決算の審議に入る前に

平成 26 年度の神戸市の歳入は 6885 億円、歳出は 6804 億円となり、対前年比マイナス 1%程度の規模とな
りました。また都市経営の指標である実質収支は、15 億 6800 万円の黒字となり、決算剰余金として財政調整
基金に積み立てます。

財政調整基金は「市の蓄え」ともいえるものですが、平成 25 年度末において 84 億円となっており、20 政令
指定都市中 15 位であり、まだまだ低い水準です。

神戸経済の活性化策ではエンタープライズゾーン条例の改正や、雇用創出になる製造業を誘致促進する助成
を行いましたが、効果があったのか疑問が残ります。

また**医療産業都市**においては、医療関連企業を 27 年度までに 300 社誘致するという目標に対して、実績は
292 社という報告を受けました。しかし**実態として、本格的な企業活動をしている企業数はどの程度なのか？**
窓口を置いただけの企業も多いと聞いています。また同構想によって生まれた商品や技術が**どれほど神戸市に
恩恵をもたらしているか**、徹底した追跡が必要でしょう。

一方**コンベンション誘致**については、9 月 7 日の外郭団体に関する特別委員会において「他都市にくらべて積
極性に欠ける」という指摘が相次ぎました。特に福岡市と比較したときに、その**組織・人数・予算規模、どれをとっ
ても劣っている**ということです。神戸市では今後、サミットの保健担当相会議やラグビー W 杯等のイベントが
行われますが、今からコンベンション機能の強化を促しておく必要はあるでしょう。

生活に身近な問題としては、人口減社会にいかに取り組んでいくかがあります。

特に**空き家対策**について、老朽危険家屋においては、安全性確保の観点から条例改訂がなされましたが、その
前段階である**「空き家」の状態の時にどのように管理するか？**ということは、個人の財産や税金にかかわる問
題ですから、条例制定の可能性も含めて今から議論しておくべきでしょう。

また福祉について、どうしても**高齢化対策**に目が行きがちです。一方、**子供を産み育てやすい神戸をいかに実
現するか**という視点も忘れてはいけません。市長はこの点に強い決意を示されていますが、わたしはバランス
が大切と考えています。まずは**地域包括ケアについてどのように議論を進めていくか**という点に焦点を絞って
質問していきます。

以上の点をふまえ、本会議において 9 月 24 日に、代表質疑に立ちます。

また決算特別委員会分科会においては 9 月 30 日に、保健福祉局の質問をいたします。

市会西区 山下てんせいの活動は [facebook](#) またはホームページにてご覧ください。

市政に対するご意見は、t.yamashita128@gmail.com まで

山下てんせい

検索

会派 HP <http://www.jimin-kobe.com/>

◆京都市バスの経営改革とその成果について

京都市のバス事業を取り巻く環境と、事業改革について説明を受けました。

京都市バスは平成 5 年以降 10 年続けて赤字でした、この状況を打開すべく平成 12 年から、全国に先駆けて運行を民間バス事業者へ委託、運転士の俸給表を抜本的に見直し引き下げる等の経営改革を断行し、また平成 21 年度に経営健全化計画を策定しました。その結果、2012 年には経営健全化団体を脱却し、平成 26 年度には累積資金不足も解消したということです。

例えば重複路線のバス運行計画は、時間調整をして等間隔にすることで、お客様を待たせない工夫を施す、あるいは民間交通事業者と調整し、電車到着時刻にバスの出発を合わせることで、スムーズな乗り換えを実現するといったソフト面の改革は注目に値すると思います。

路線、ダイヤの拡充についても、モビリティマネジメントによる協働、判断により、官民一体となって機運を高めるような取り組みも素晴らしいと思います。

また JR 京都駅前の広大なバスロータリーにては、視覚に訴える様々なデザインがなされており、非常にわかりやすく利用客にやさしい施策だと評価しています。



◆名古屋市立東山動植物園の再生プランについて

東山動植物園における基本計画について説明を受け、現地を視察しました。

その内容は施設の新設・改築も然ることながら、市民や企業など多様な参加・協働の推進が顕著で、名古屋を本拠とする企業からの寄贈が目立ちます。例えばコアラ舎は、brother 社の寄贈によって「コアラの森」というコーナーが設置されており、コアラに関する様々な学びが得られるようになっていました。こういった地元企業の参加は、公の施設を運営する上でも非常に助かるうえ、宣伝広告にもなって winwin の関係になります。

また園内の敷地に商業施設、レストラン・多目的施設を設置することを許可し、プロポーザル方式による民設民営を推進していました。これにより年間使用料や売り上げに対するコミッションを収入とすることが出来るメリットもあります。しかしこのためには、広大な敷地を有していることが必要とされますので、神戸市の王子動物園への汎用は難しいのではないかと思います。



◆浦安市 弁天ふれあいの森公園に見る官民協働

計画段階から市民と行政の協働がみられた近隣公園、浦安市弁天ふれあいの森公園について説明を受け、現地を視察しました。

市民共同参画による準備・懇談会・ワークショップ等が展開され、また「ふれあいの森公園を育む会」というボランティア団体が発足し、市によるベーシックな維持事業プラスアルファの管理がなされています。具体的には園内の花壇を彩る花々は、ボランティア団体の手により種から育てられ、そのレイアウトにいたるまで工夫が凝らされています。また園内の芝生は、市から提供された芝刈り機によって丁寧に手入れされている。そして園内のビオトープ等を利用して、近隣の子供たち向けの環境学習のフィールドとしてや、市民大学の学びの場として活用されています。

こういった取り組みが展開された背景には、市域の 4 分の 3 が埋立地であるという浦安の事情が垣間見えます。すなわち市民のほとんどが新住民であり、行政によって監理してもらうこと、サービスを受けることに慣れてしまっていることが、市民協働の意識を希薄にしているという事情があるということです。

私は、神戸市においては、比較的公園管理に関する市民参加への制度は整っていると考えています。一方でその担い手の発掘や、公園・地元への愛着を醸成することは、地域自治・協働のために不可欠とも考えていますので、今回の視察を大いに参考にします。



◆東京水道サービス株式会社の国際展開事業について

東京都の外郭団体である東京水道サービス株式会社（以下 TSS）が、都市外交の一環として国際事業を展開しています。その内容と進め方、また現地に於ける体験談等を説明していただきました。

今回は特にヤンゴン市における無収水（収入に至らない水、漏水や盗水などが原因）対策事業について話を伺いました。平成 24 年に JICA ヤンゴン市水道マスタープランを受託し、将来計画を策定したことが始まりです。しかし実情は、水道管が家屋側溝の中を沿うように設置されており、衛生的ではなかったそうです。また 24 時間 365 日確実に配水されているわけではないため、そういった汚水を管渠内に引き込んでしまうといった問題もあったようです。

そこでまず、ヤンゴン市の幹部を日本に招き、2 度にわたる研修を行いました。ミャンマーの人々は非常に勤勉で、その日に学んだことをその日のうちに復習・まとめしており、理解も早かったということです。

そして平成 25 年にヤンゴン市水衛生局と TSS の間で覚え書きが結ばれましたが、その中にプロジェクト形成の協力が明記されていたのは、これまでの取り組みがいかに濃密であったかを伺わせます。

その後平成 26 年 10 月に無収水対策パイロット事業を実施する運びとなり、ヤンゴン市内の一部地域で流水計の設置や測定・水道メーターの交換・増圧ポンプの設置等の事業が展開されました。

その際、それまでは中国製のポンプ等が使用されていたが、質が悪くすぐ破損していたようで、改めて日本製の機器や管渠、ポンプの質の高さが証明されたことは喜ばしく感じます。一方で、現地の大卒技術者に、実際に埋設現場に入って管渠を設置させるといった訓練は、やはりプライドからか、困難があったようです。結果として最後まで研修に参加したのは 10 名中 3 名程度であったといいますが、今後はその 3 名を中心として現場の技術継承されることが期待できると仰っていました。

神戸市においても、国際展開の必要性は議会にて度々主張されてきました。今後の水道事業、またメーカーの海外展開を考えても、さらに推進する理由を得たように思います。